

第1回審議会意見等

No.	委員名	質問・意見・提案の要約	市の回答	対応状況
1	吉岡委員	(1)多様な市民からの意見をまとめてほしい (2)無作為抽出による意見聴取をしてほしい。	(1)意見募集、パブコメ、市長による地区説明会を実施 市民の代表である議会からも逐次意見を伺う予定 (2)様々な方から積極的に意見を伺いたいが、無作為で実施するかの適否については協議していく。	(1)済 (2)今後協議
2	古賀副委員長	(1)総括を見るとこれまで実績が上がってないものもあるが、次の計画では質的な淘汰が必要と考える。 (2)今後取組の方向性が正しく進んでいるのかを総括できるような表の作成、あるいは計画設定をするのがよいのではないか。	(1)現在単年度で重点課題をローリングする形で進捗管理をおこなっている。この計画では、5年間の課題を挙げて進捗管理する想定である。 (2)今後、わかりやすい計画策定を心掛けたい。	策定作業の中で検討
3	佐貫委員	まちづくりの方向性として、コンパクトシティ化か郊外に広げていくのか。	都市計画のマスタープランを作成したが、その中で明確にコンパクト&ネットワークを打ち出している。	済
4	伊坂委員	総合計画を少しでも多くの市民の方にわかっていただけのような取り組みをお願いしたい。	市民に愛着をもってもらえるような計画としたい。	済
5	桂藤委員	米子市はIT分野が弱いと思うので、計画に入れて取り組んでいただきたい。	6月に出た次期地方創生の基本方針の中でSociety5.0の時代について明示されている。今回の総合計画は、総合戦略も含んだ構成となっているので、Society5.0に向けた取組を盛り込むことを想定している。また、市の情報発信が弱いという認識から、シティプロモーション推進室という組織を作り、積極的に情報発信をしているところ。	今回の体系で「Society5.0」記載
6	田後委員	協議会の財源が減少する状況のなか、市民のためにどのように活動していくか現在検討しているので、皆さんの意見を伺いたい。	これは地域の課題であり、今いわゆる地域の自治会の組織率が非常に低下している。これに対する対応についても今回の総合計画に書き込まないといけないと考えている。	策定作業の中で検討
7	中村委員	文化協議会には高齢化が進んでおり、なかなか若い世代が入ってこない。	計画を策定するなかで、こういった形で若い世代にもこういった文化、スポーツの振興につながるような取り組みをできるか、色々考えてみたい。	策定作業の中で検討
8	藤吉委員	雇用環境の整備について、例えば外部のライターさんとか広報のプロの方に参画をいただいて、会社の内容が求職者の方にとって魅力的に映るように情報を書いたりとか、そういったところに補助したりするっていうのも有効ではないか。	雇用は市町村で境界があるわけではないので、やはり県とか国あるいは近隣市町村、中海・宍道湖・大山圏域の市町村等々連携して人口を維持していくためにこの雇用をいかにこの地域で守っていくか、あるいは増やしていくか、そういう視点で取り組みを進めたい。	
9	堀尾委員	この分野はこういう団体と活動してますよっていうのが見えると、いろいろ取組が発展していく可能性があるのではないか。	委員が言われたように、この計画に基づいて市役所の仕事を展開していけるような計画にしていきたいと考えている。	策定作業の中で検討。記載するとすれば、基本計画のなかで。
10	渡部委員	(1)コンパクトシティの方向は、市を機能的な市にするのか、それとも魅力のあるまちづくりなのか。 (2)ITを活用して、市の魅力をを県外に発信して、移住者、観光課客など人の流れを作っていただきたい。	(1)基本的には機能的なまちづくりであるが、それは魅力的なまちづくりのところと相反するものではなくて、機能的でかつ魅力的なまちづくりを目指していきたい。 (2)ITを使った情報発信についても取り組む必要があると考えている。	(1)済 (2)今後検討するが、既存の取組は存在する。